

## 予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

### 事 業 名 【新】山岳資源活用誘客プロモーション事業費 (R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 観光文化スポーツ政策課  
サステナブル・ツーリズム推進室  
サステナブル・ツーリズム推進係

電話番号：058-272-1111(内3915)  
E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 補正要求額 8,880 千円 (現計予算額： 0 千円)

#### <財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	8,880	4,290	0	0	0	0	0	0	4,590
決 定 額	8,880	4,290	0	0	0	0	0	0	4,590

#### 2 要 求 内 容

##### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

観光が基幹産業である飛騨地域において、令和6年の観光入込客数の状況は、コロナ禍前の水準まではほぼ回復し、古い町並、白川郷、下呂温泉など知名度のある観光地には多くの観光客が押し寄せている。一方で、中部山岳国立公園南部地域の奥飛騨温泉郷における宿泊者数はコロナ禍前まで回復しているものの、長期的には平成4年をピークに減少傾向が続き、同エリアの乗鞍岳の入込数においても平成15年のマイカー規制後減少傾向が続いている。一極集中からの分散化・平準化を図るためにも、多くの山岳資源がある中部山岳国立公園南部地域及び国定公園化が予定されている御嶽山山麓エリアの認知度向上を図り、誘客に繋げていくことが必要である。

また、「松本・高山Big Bridge構想実現プロジェクト」により中部山岳国立公園南部地域の活性化が図られつつも、長野県側の上高地は令和6年に過去15年で最多となる入込客数となったことと比べ、岐阜県側は首都圏からの集客という点において長野県側と比べ見劣りしており、こうした状況を打破していく必要がある。

こうした課題を解決するため、御嶽山国定公園化及び「山の日」記念全国大会の開催をきっかけに御嶽山や中部山岳国立公園の山岳エリアに注目が集まるこの機をとらえ、それぞれ地域の回復発展に向けたより一層の取組みを推進していく。

##### (2) 事業内容

本県が取り組むサステナブル・ツーリズムを軸に、中部山岳国立公園内の奥飛騨温泉郷と上高地、そして御嶽山山麓エリアそれぞれの地域の豊富な山岳資源について、長野県側と広域的な連携を図り、その魅力をPRすることで、同地域の知名度・魅力度向上、滞在時間の延長や宿泊促進、観光消費額増加に繋げる。

- ・旅行会社とタイアップした旅行商品の造成及びプロモーション
- ・都市圏での共同PRイベント

### (3) 県負担・補助率の考え方

県内における観光産業の振興は県が率先して実施すべき事業であり、県負担は妥当。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	プロポーザル評価会議
旅費	217	費用弁償、職員旅費
消耗品費	22	事務用品等
燃料費	14	ガソリン代
会議費	5	プロポーザル評価会議
役務費	5	通信費等
委託料	8,580	プロモーション実施経費
使用料	5	高速代等
合計	8,880	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- 「第二次岐阜県中部山岳国立公園活性化推進基本計画」
- 「岐阜県経済・雇用再生戦略」

### (2) 国・他県の状況

- 中部山岳国立公園は、環境省「国立公園満喫プロジェクト」の準モデル公園として選定されている。

### (3) 後年度の財政負担

- 新たな誘客対策の柱として継続的に取組む必要があるため、後年度も継続。

### (4) 事業主体及びその妥当性

- 地域全域における事業であるため、県が事業主体となることは妥当である。

# 事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

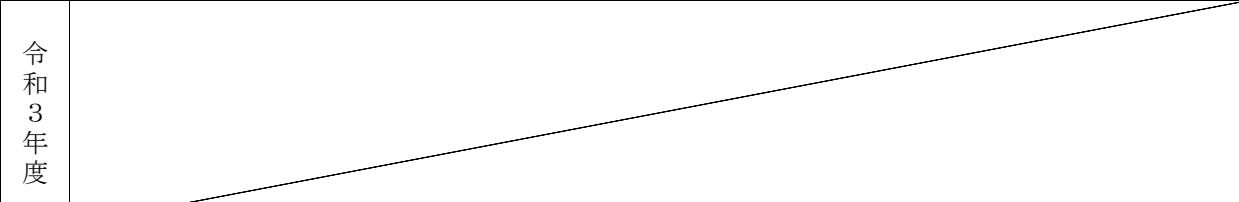
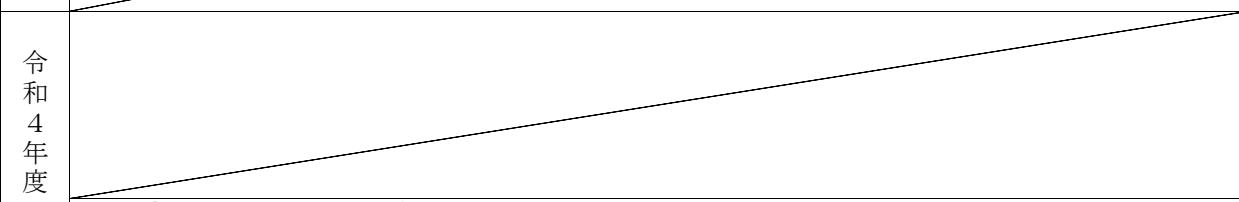
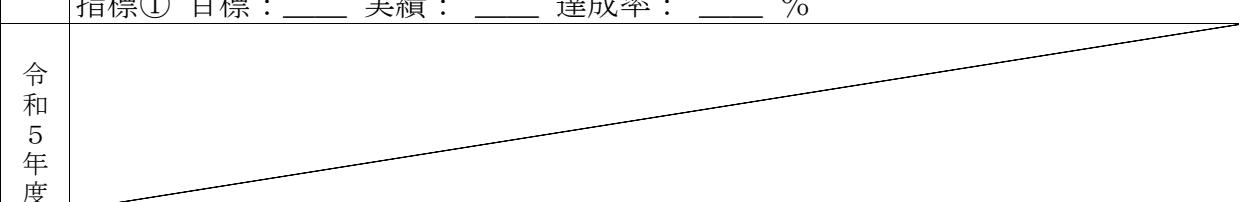
飛騨地域の山岳エリア（中部山岳国立公園南部地域及び御嶽山国定公園エリア）について、関東・中京エリア在住者をターゲットに同地域の魅力をプロモーションすることで、来訪者と地域の消費喚起につなげる。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R )	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①観光消費額		3, 044億円	3, 100億人	3, 300億円	(R9) 3, 600億円	84. 6%
②観光入込客数 (実数)		4, 365万人	4, 800万人	4, 900万人	(R9) 5, 300万人	82. 4%
③宿泊客数 (奥飛騨・年)		452千人	474千人	644千人	722千人	62. 6%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (これまでの取組内容と成果)

令和 3 年 度	
令和 4 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 5 年 度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

- 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
(評価)	

### (今後の課題)

- 事業が直面する課題や改善が必要な事項

山岳エリア（中部山岳国立公園及び御嶽山）への継続的な観光客の来訪や宿泊・周遊の促進を図っていく必要がある。

### (次年度の方向性)

- 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか  
中部山岳国立公園エリア、御嶽山山麓及びその周辺地域への誘客は、一過性のものではなく継続的な取組みが大切であり、引き続き、当該資源のプロモーション等に取り組む必要がある。

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	